

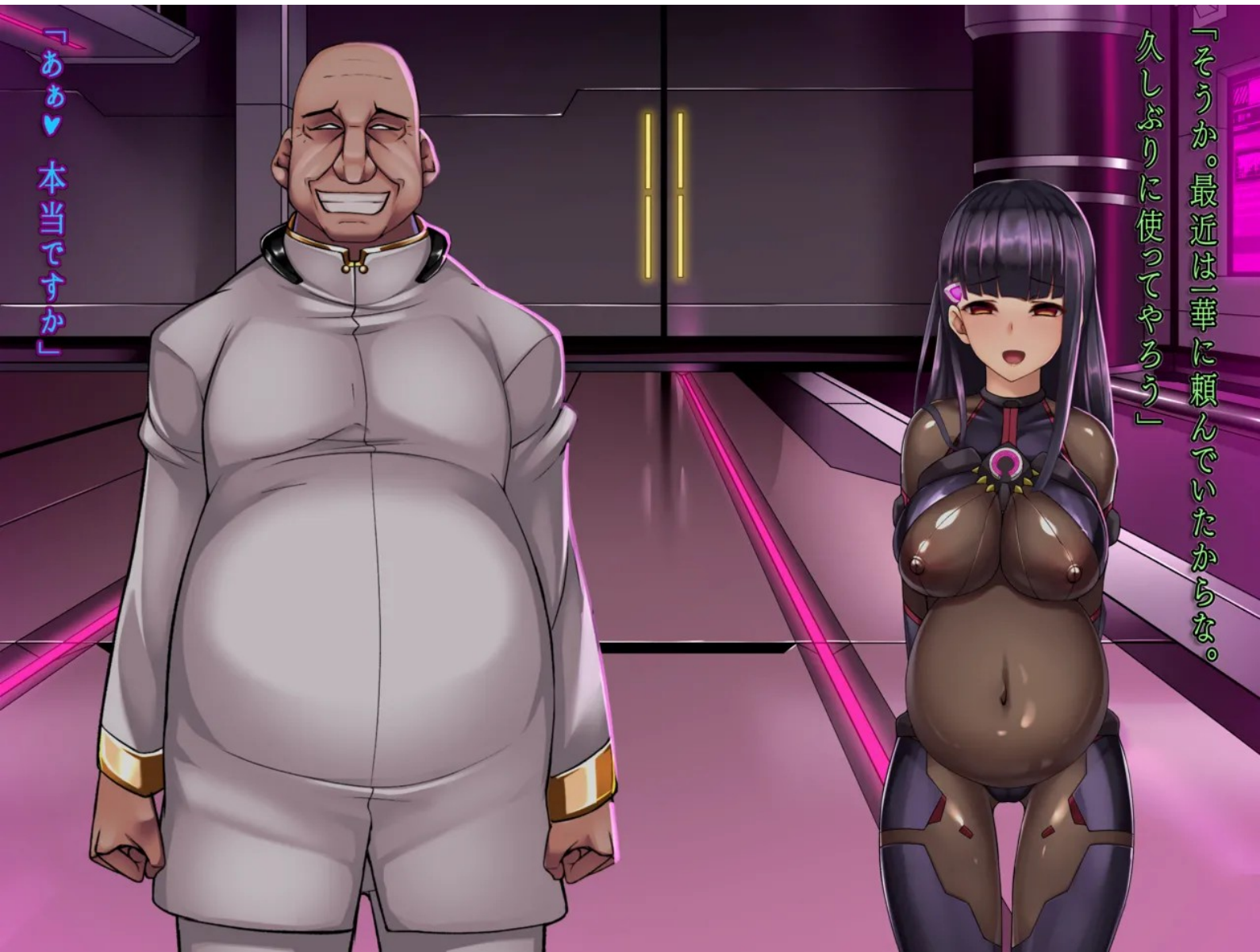
「もう7ヶ月か。身体の具合はどうだ」

「見て下さい。ご主人様、こんなに大きくなりました」

「お心使いありがとうございます。大丈夫です。ご主人様に改造して頂いていますから、体調も問題ありません」

「勿論、おまんこだっていつ使って頂いても構いません♡  
私はご主人様の所有物。いつ何時でも雌奴隷としての責務は忘れていません」





「ああ♡ 本当ですか」

「そうか。最近は一華に頼んでいたからな。  
久しぶりに使ってやろう」

「嬉しい♡ 久しぶりのおちんぽ様♡ やっぱりおちんぽ様じゃないと満足できないんですっ♡」

「毎晩自慰に耽っていたのは知っている。  
「華とやっているのをモニターで覗き見していただろう？」



「ごめんなさい♡ だって、「華ちゃんぽっかかりご主人様を  
独り占めしてズルいんですもの」

「お腹の子と同じぐらい、おちんぽ様が愛おしくてえ♡♡」



「悪い妊婦だ。生まれてくる娘にどう説明するんだ？」



「私の娘ですから、きつとすぐご主人様のおちんぼの素晴らしさがわかるはずですよ♡ あっ、おちんぼ様膨らんでる♡  
ザーメンください♡ 卑しい淫乱なママに精子注いでえ♡♡」

「しようがない母親だ。いいだろう受け取れ！」

おっぱいおっぱいおっぱい

ゴッホ

「あひいひい♡あぁ、出てます♡  
お腹の赤ちやんにもいっぱい♡♡」





「満足したか。安心しろ。」

子を産めばまたいくらでも犯してやる」

ドロォー

はー♡

はー♡

「ああ、ありがとうございます……♡」

